

地域情報

けいなわ 「京奈和自転車道」の一部区間が奈良県内で初めて供用開始 ～自転車による広域周遊観光の促進により地域振興や観光振興の実現を目指す～

■「京奈和自転車道」一部区間が県内で初めて供用開始

2017年10月、奈良県大和郡山市下三橋町から長安寺町の間（約4.4km）で、「京奈和自転車道」の一部区間が県内で初めて供用開始された。

京奈和自転車道は、京都・嵐山から和歌山港に至る総延長約180kmの広域周遊自転車道で、京都府・奈良県・和歌山県が連携して構想を進めている。奈良県内では奈良市から五條市に至る延長約75kmのルートが該当し、既存の自転車道も利用しながら、各種サイン（看板）など統一的な仕様に従って、2015年度からルート整備を行っている。

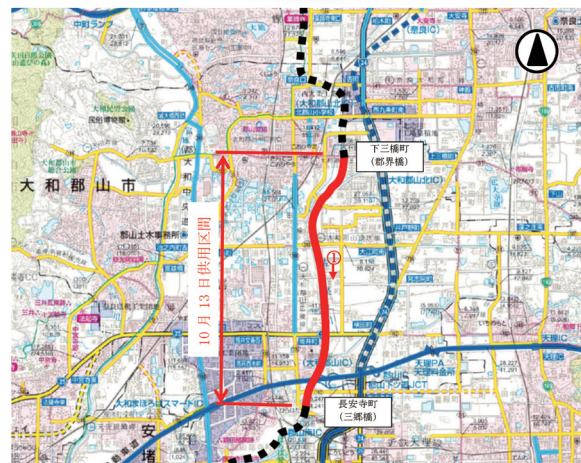
同自転車道により、奈良県では、自転車による広域周遊観光の促進、自転車利用者と地域との交流による地域振興や観光振興の実現を目指している。

■ネットワーク化で観光振興や地域活性化を目指す

奈良県では2010年12月に「奈良県自転車利用促進計画」を策定。2011年度には県内の自転車ルートをもとに、31の個別ルート・総延長約600kmにおよぶ「奈良まほろばサイク∞リング（略称：ならクル）」として設定し、HPやパンフレットなどでサイクリストが立ち寄れる「自転車の休憩所」や「おすすめルート」等を紹介するなど、全国でも先進的な自転車利用ネットワークの形成を進めていることで知られている。

京奈和自転車道整備を担当する奈良県県土マネジメント部道路環境課の担当係長は、「京奈和自転車道と『ならクル』をネットワークで上手くつなぎ、自転車で走りやすい環境の整備を進めたい。広い範囲に名所が散らばる奈良県内をサイクリストが活発に行き来することで、更なる観光振興や地域活性化につなげたい」と今後の抱負を語る。

（吉村謙一）



「京奈和自転車道」の全体構想図（上）、今回供用開始された区間（中）、供用開始区間の様子（下）